

## 1. はじめに

- 昭和42年、3市の合併により市域及び人口が拡大。市の規模に相応しい図書館サービス網を形成するため、市内7つのリージョン区に1館ずつ図書館を設置する7館構想が打ち出されますが、平成4年に相当規模の花園図書館が開館、平成8年に市内に国内最大規模の公共図書館となる府立中央図書館が整備されることとなり、3館2分室と移動図書館による図書館サービスの提供へと大きく方向転換します。その後、「各地域の特色を活かした真の全域サービス」を実現することが責務であるとされました。
- 令和2年、新型コロナウイルス感染症拡大による全国的な図書館の長期休館、それを補う電子図書館等のDXサービスの開始など、第一次構想策定時には予見できなかった社会の変化が発生しました。
- 第一次構想策定から9年が経ち、今の時代に求められる市立図書館の役割と、各図書館における特色あるサービスを新たに検討する時を迎え、第二次構想策定に至ります。

## 2. 構想の前提

### 市の概要・現状

- 市の特色：ラグビーのまち、モノづくりのまち、大学のまち、文化のまち
- 若い世代が転出傾向にある
- 高齢者単身世帯が増加傾向にある



### 上位計画・関連計画

- 将来都市像「つくる・つながる・ひびきあう」-感動創造都市 東大阪-
- 子ども読書活動推進計画
- 児童相談所及び図書館整備に関する基本計画

### 市立図書館概要

図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>3館2分室と移動図書館2台、電子図書館</li> <li>基本サービス、地域性を活かしたサービスを継続</li> </ul>	蔵書数	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度末時点で、864,448点</li> <li>全体の割合は、「9文学」が多め</li> <li>四条図書館が狭隘化している</li> </ul>
電子図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年4月導入、文部科学大臣表彰受賞</li> <li>子どもの読書環境の充実に貢献する一方、多世代にわたる利用者は少ない</li> </ul>	第一次構想 (検討中・未実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動図書館車両の老朽化への対応</li> <li>家庭・地域文庫（11文庫→4文庫）との連携</li> <li>学校図書館システム連携</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大以降、減少傾向</li> <li>登録率が6.6%と低い</li> <li>紙の本と電子書籍貸出件数を合わせると、電子図書館導入前の利用を大きく上回る</li> </ul>	基準等との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設規模や蔵書数は少ないが、限りある資源でサービスを継続</li> <li>府立図書館も立地していることで、市民への資料アクセス環境が保たれている</li> </ul>

## 3. アンケート調査

**対象** 一般市民、子育て層、学校関係者（児童生徒／教職員）、就業者

**方法** 紙の調査票またはWeb

**期間** 7月～9月のうち、対象ごとに2週間から約2か月

### 主なニーズ・特徴

**これからの図書館サービス**

- 「本・雑誌等の充実」「カフェ」の要望が多い
- 10歳代では学習席、子育て層では乳幼児・児童向けの資料やイベントのニーズが多い

**新しい図書館に望むもの**

- 明るく開放的で、居心地がいい
- 館内で勉強できる
- 友達とおしゃべりができる
- 食べたり飲んだりしながら過ごせる
- 気分転換・リフレッシュ

**電子図書館**

- 児童・生徒の利用率が高いが、パスワード等が分からず使えていない場合もある
- 一般では約8割が電子図書館を使っていない（理由は「電子図書館を知らない」「使い方が分からない」など）

**図書館を利用しない層**

- 理由は「忙しくて行く暇がない」「本をあまり読まない」
- 「資料の充実」よりも「カフェ」や「Wi-Fi」「気分転換・リフレッシュ」などの要望が多い

**児童・生徒**

- 知りたいことはインターネットで調べている
- 電子図書館を利用するようになり読書に興味をわいた

**子育て層**

- 子どもが騒ぎそうで行きづらいという声が多い
- 使いやすい曜日は休日
- 新しい図書館では、「子どもが声を出して遊べる」というニーズが高い



- 市立図書館を使う人以外に、府立や近隣自治体を使う人も一定数いる
- 移動図書館で「日程や場所を分かりやすく知らせてほしい」が大多数、滞在時間延長等のニーズも有り

## 4. 今後の東大阪市立図書館が向かう方向性

現資産とデジタルを活用した全域サービス

- 3館2分室をベースとしながら、市内にある様々な図書館資産（リアル、デジタル含む）を活用したネットワークの構築による、市全域サービスの実現

訪れたい地域性特色の打出し

- 地域性を活かしたサービスの継続、現在実施しているサービスのさらなる拡充
- 市の特色、魅力を活かしたサービスの検討

新たな図書館ファンの獲得

- どのような目的でも訪れやすい図書館
- 交流・会話をしたい、静かに勉強したいというニーズの両立
- あらゆる人が利用しやすい資料提供とバリアフリー整備
- 図書館サービスを知らない方々にも知ってもらえる情報発信

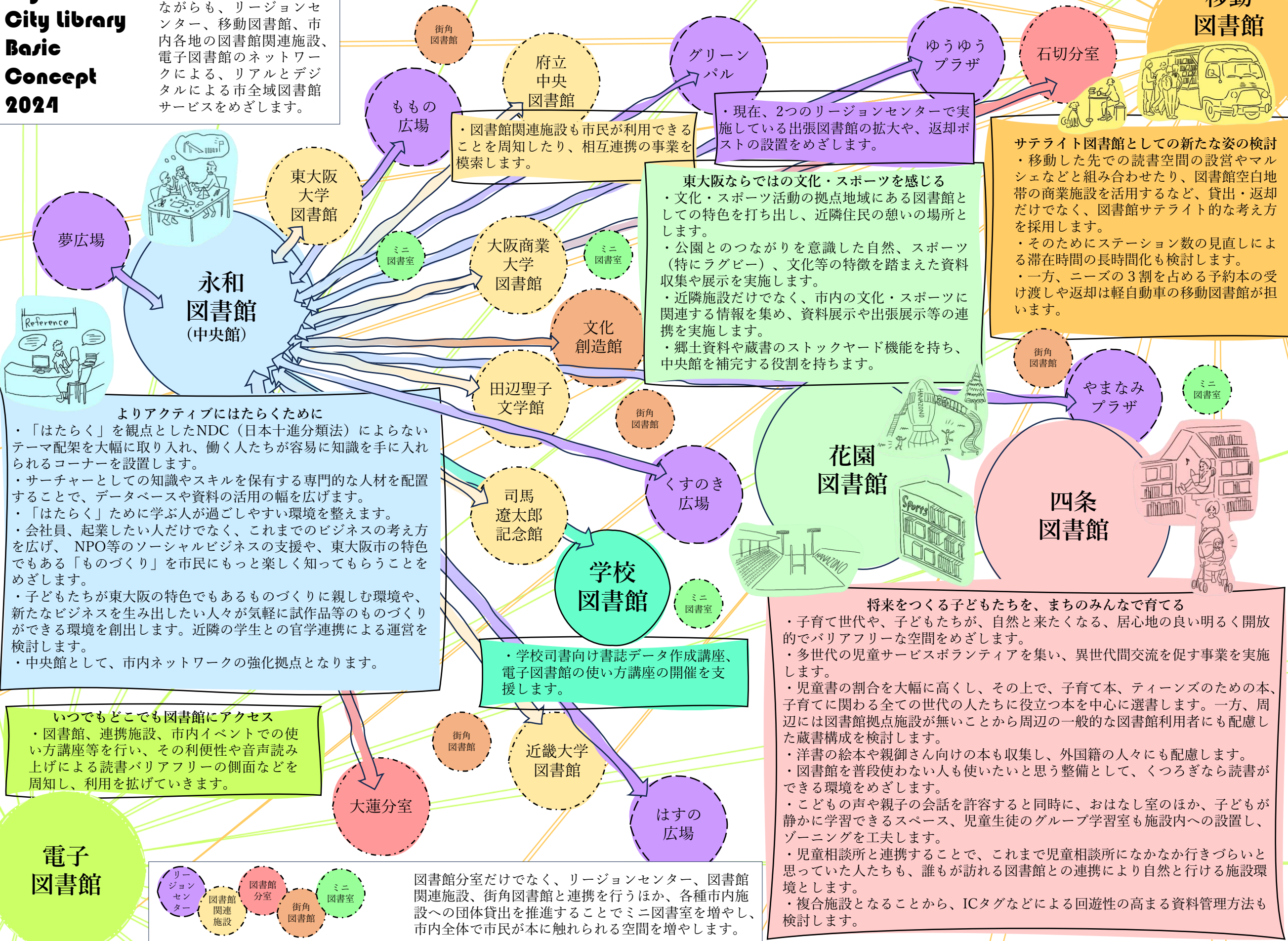


リアルとデジタルを活かした、地域ごとに特色ある、自然と訪れたい、真の全域図書館サービス

# Higashiosaka City Library Basic Concept 2024

3館2分室をベースとしながらも、リージョンセンター、移動図書館、市内各地の図書館関連施設、電子図書館のネットワークによる、リアルとデジタルによる市全域図書館サービスをめざします。

リアルとデジタルを活かした、地域ごとに特色ある、自然と訪れたくなる、真の全域図書館サービス



**永和図書館 (中央館)**

Reference

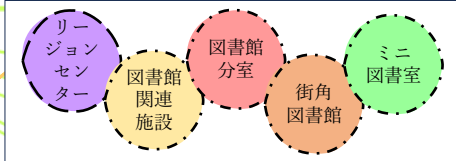
**よりアクティブにはたらくために**

- ・「はたらく」を観点としたNDC (日本十進分類法) によらないテーマ配架を大幅に取り入れ、働く人たちが容易に知識を手に入れられるコーナーを設置します。
- ・サーチャーとしての知識やスキルを保有する専門的な人材を配置することで、データベースや資料の活用を幅を広げます。
- ・「はたらく」ために学ぶ人が過ごしやすい環境を整えます。
- ・会社員、起業したい人だけでなく、これまでのビジネスの考え方を広げ、NPO等のソーシャルビジネスの支援や、東大阪市の特色でもある「ものづくり」を市民にもっと楽しく知ってもらうことをめざします。
- ・子どもたちが東大阪の特色でもあるものづくりに親しむ環境や、新たなビジネスを生み出した人々が気軽に試作品等のものづくりができる環境を創出します。近隣の学生との官学連携による運営を検討します。
- ・中央館として、市内ネットワークの強化拠点となります。

**いつでもどこでも図書館にアクセス**

- ・図書館、連携施設、市内イベントでの使い方講座等を行い、その利便性や音声読み上げによる読書バリアフリーの側面などを周知し、利用を拡げていきます。

**電子図書館**



**ももの広場**

- ・図書館関連施設も市民が利用できることを周知したり、相互連携の事業を模索します。

**大阪商業大学図書館**

- ・東大阪ならではの文化・スポーツを感じる
- ・文化・スポーツ活動の拠点地域にある図書館としての特色を打ち出し、近隣住民の憩いの場所とします。
- ・公園とのつながりを意識した自然、スポーツ (特にラグビー)、文化等の特徴を踏まえた資料収集や展示を実施します。
- ・近隣施設だけでなく、市内の文化・スポーツに関連する情報を集め、資料展示や出張展示等の連携を実施します。
- ・郷土資料や蔵書のストックヤード機能を持ち、中央館を補完する役割を持ちます。

**学校図書館**

- ・学校司書向け書誌データ作成講座、電子図書館の使い方講座の開催を支援します。

**近畿大学図書館**

**大連分室**

図書館分室だけでなく、リージョンセンター、図書館関連施設、街角図書館と連携を行うほか、各種市内施設への団体貸出を推進することでミニ図書室を増やし、市内全体で市民が本に触れられる空間を増やします。

**グリーンパル**

- ・現在、2つのリージョンセンターで実施している出張図書館の拡大や、返却ポストの設置をめざします。

**花園図書館**

**くすのき広場**

**はすの広場**

**移動図書館**

サテライト図書館としての新たな姿の検討

- ・移動した先での読書空間の設営やマルチなど組み合わせたり、図書館空白地帯の商業施設を活用するなど、貸出・返却だけでなく、図書館サテライト的な考え方を採用します。
- ・そのためにステーション数の見直しによる滞在時間の長時間化も検討します。
- ・一方、ニーズの3割を占める予約本の受け渡しや返却は軽自動車の移動図書館が担います。

**四条図書館**

**やまなみプラザ**

将来をつくる子どもたちを、まちのみんなで育てる

- ・子育て世代や、子どもたちが、自然と来たくなる、居心地の良い明るく開放的でバリアフリーな空間をめざします。
- ・多世代の児童サービスボランティアを集い、異世代間交流を促す事業を実施します。
- ・児童書の割合を大幅に高くし、その上で、子育て本、ティーンズのための本、子育てに関わる全ての世代の人たちに役立つ本を中心に選書します。一方、周辺には図書館拠点施設が無いことから周辺の一般的な図書館利用者にも配慮した蔵書構成を検討します。
- ・洋書の絵本や親御さん向けの本も収集し、外国籍の人々にも配慮します。
- ・図書館を普段使わない人も使いたいと思う整備として、くつろぎなら読書ができる環境をめざします。
- ・こどもの声や親子の会話を許容すると同時に、おはなし室のほか、子どもが静かに学習できるスペース、児童生徒のグループ学習室も施設内への設置し、ゾーニングを工夫します。
- ・児童相談所と連携することで、これまで児童相談所になかなか行きづらいついていた人たちも、誰もが訪れる図書館との連携により自然と行ける施設環境とします。
- ・複合施設となることから、ICタグなどによる回遊性の高まる資料管理方法も検討します。